

## 羽畑祐吾学長式辞要旨



食物栄養科、保育科の卒業生、並びに、専攻科保育専攻の修了生の皆さん、ご卒業、誠におめでとうございます。皆さんを卒業生として送り出せますことを、教職員一同、心より嬉しく思います。これまで深い愛情をもって支えてこられた、ご家族のみなさまにも、心からお祝いと、敬意を申し上げます。春の光に包まれたこの日、皆さんは、新たな一步を踏み出します。それは喜びであると同時に、社会の一員としての、責任を

担う第一歩でもあります。今、世界に目を向けますと、決して平穏とは言えない現実が広がっています。戦火はやまず、立場や価値観の違いが容易に溝を生み、私たちが生きる社会のあちらこちらで、分断が深まっています。歴史を俯瞰すれば、こうした状況もまた、大きな流れの中の、一局面に過ぎないのかもしれませんが。しかし、今を生きる私たちにとって、その分断は、決して見過ごしてよい出来事ではありません。互いの声が届きにくくなる中で、相手の立場を想像する前に、自分の考えを優先してしまう。このことは、決して他人事ではありません。私たち自身もまた、知らず知らずに、このようなことをしてしまうことがあるのではないのでしょうか。だからこそ、改めて問い直したいのです。本学の建学の精神である「実践を貴ぶこと」とは何を意味するのかを。実践を尊ぶとは、自分の中で育てたものを、日々の行いで表出することにほかなりません。知識は、使われてこそ、意味を持ちます。資格は、いかされてこそ、力になります。食物栄養科で学ばれた皆さんは、食を通して、人のいのちを支える道を選びました。一皿の向こうには、それを口にする、誰かの暮らしがあります。保育科および専攻科で学ばれた皆さんは、子どもを育み、支える道を選びました。小さな手のぬくもりの中に、無限の未来という時間が息づいています。皆さんの仕事は、決して華やかさを競うものではありません。けれども、それぞれの現場で、専門性をもって誰かに向き合うことは、社会に対する、最も確かな思いやりの形です。人の営みの、最も根源に近い場所に立つ、その尊い仕事に、皆さんはこれから携わっていきます。どうか忘れないでください。皆さんが身につけた専門性は、誰かを思い、他者を想像する力と結びついてこそ、本当の意味で社会を支える力となります。迷う日もあるでしょう。自分の未熟さを、思い知る日もあるかもしれません。しかしその時こそ、立ち止まり、自らを律するとは何か、思いやりとは何かを、静かに問い直してください。人を想像する力が、人の仕事を、人の仕事にする。想像し続けて下さい。その人の明日のために。